

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		①			
②貯蔵する危険物の概要		引火点	℃	貯蔵温度	℃
基礎、据付方法の概要		③			
④ タンクの構造、設備	形状			常圧・加圧(kPa)
	寸法			容量	
	材質、板厚				
	通気管	種別	数	内径又は作動圧	
					mm kPa
	安全装置	種別	数	作動圧	
					kPa
液量表示装置			引火防止装置	有・無	
不活性気体の封入設備			タンク保温材の概要		
注入口の位置		⑤		注入口付近の接地電極	⑥ 有・無
⑦ 防油堤	構造		容量	排水設備	
ポンプ設備の概要		⑧			
避雷設備		⑨			
配管		⑩			
消火設備		⑪	タンクの加熱設備	⑫	
工事請負者住所氏名		⑬			電話

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

【屋外タンク貯蔵所構造設備明細書 記入要領】

- ① 「事業の概要」欄は、当該屋外タンク貯蔵所を設置している事業所等の主たる事業概要を記入し、かっこ書きで貯蔵目的を記入する。
(例) 塗料の製造(原料原油の貯蔵) / 医薬品製造業(製品の貯蔵) / 産業廃棄物処理業(燃焼炉(一般取扱所)にて消費する燃料の貯蔵)等
- ② 「貯蔵する危険物の概要」欄は、当該屋外タンク貯蔵所に貯蔵する危険物の引火点及び最高貯蔵温度を記入する。
なお、常温で貯蔵する場合は常温と記入する。
- ③ 「基礎、据付方法の概要」欄は、当該タンクを設置する位置の基礎施工方法及びタンク据付方法の概要を記入する。
(例) 鉄筋コンクリート造りの基礎にアンカーボルト(M16×8本)で固定。タンク底部、エポキシ樹脂防食 / コンクリート直接基礎、M16アンカーボルト4本にて固定。タンク底部はアスファルトサンド厚さ50mm仕上げ等
- ④ 「タンクの構造、設備」欄は、次により記入する。(長さを記入する際の単位はmm)
- a 「形状」は、タンクの形状及び屋根形状について記入する。
(例) 円筒縦型(コーンルーフ) / 円筒縦型(ドームルーフ) / 円筒縦型(フローティングルーフ) / 円筒縦型(インナーフロート) / 円筒横型 / 角型等
- b 「常圧・加圧(kPa)」は、当該タンクの貯蔵方法を○で囲み、加圧の場合はその圧力を記入する。ただし、正圧又は負圧で5kPaを超えないものについては加圧には該当しない。
- c 「寸法」は、次の例により記入する。
(例) 【円筒縦型】内径、高さ(側板の底部からトップアングルまでの高さ)
【円筒横型】内径、胴長、鏡出
【角型】縦(奥行)、横(幅)、高さ
- d 「容量」は、危政令第5条の規定により算定されたタンクの容積を記入する。
- e 「材質、板厚」は、タンクのそれぞれの部分の材質及び板厚を記入する。
(例) 【円筒縦型】底板SS400 9.0mm、側板SS400 6.0mm、屋根板 SS400 4.5mm、アニュラ板SS400 9.0mm等
【円筒横型】胴板 SUS304 6.0mm、鏡板SUS304 6.0mm等
【角型】底板SS400 9.0mm、側板SS400 6.0mm、天板SS400 6.0mm等
- f 「通気管」は、設置された通気管の種別(無弁又は大気弁付)、内径、設置数を記入する。
なお、大気弁付通気管である場合は作動圧を記入する。
- g 「安全装置」は、当該タンクが圧力タンクである場合に、安全装置の種類、設置数、作動圧を記入する。該当しない場合は斜線で抹消する。
- h 「液量表示装置」は、タンクに設置した液面計の形式又は種類を記入する。
(例) フロート式液面計 / 磁歪式デジタル液面計 / 磁歪式高精度液面計(常時監視)等
- i 「引火防止装置」は、設置された通気管に引火防止装置がある場合は有を○で囲む。
- j 「不活性気体の封入設備」は、タンクに不活性気体を封入する設備が設けられる場合に、当該設備の概要を記入する。該当しない場合は斜線で抹消する。
- k 「タンク保温材の概要」の欄は、タンクの外面に保温材がある場合に、保温材の種類、施工方法等を記入する。

- ⑤ 「注入口の位置」欄は、当該タンクにドラム缶又は移動タンク貯蔵所等から危険物を受け入れる注入口がある場合に、当該受入口の設置場所及び設置場所が防油堤の内側か外側かを記入する。

なお、製造所から配管により危険物を受け入れる場合はその旨を明記する。

(例) 防油堤内西側(遠隔液面計有) / 注入口なし(〇〇棟(製造所)から配管で受入れ)等

- ⑥ 「注入口付近の接地電極」欄は、注入口付近にローリーアース等がある場合は有を○で囲む。

- ⑦ 「防油堤」欄は、次により記入する。

a 「構造」は、当該防油堤の構造を記入し、かっこ書きで高さ及び厚さを記入する。

(例) RC造(高さ800mm、厚さ150mm)等

b 「容量」は、当該防油堤の容量を記入する。

なお、2以上の屋外貯蔵タンクの周囲に設ける防油堤である場合は、かっこ書きで当該防油堤内にある最大貯蔵タンクの名称又は番号等及び当該タンクの容量を記入する。

(例) 80.43 m³(最大貯蔵タンクS60 第3号(50 kL))等

c 「排水設備」は、当該防油堤内の雨水等の排水設備の概要を記入する。

(例) 防油堤内に集水ますを設け、防油堤外に排水弁を設ける等

- ⑧ 「ポンプ設備の概要」欄は、当該タンクの受払いを行っているポンプの設置位置、種類、最大吐出量、電動機の出力及び防爆構造、設置数等の概要を記入する。

(例) ・屋外、歯車ポンプ、25 L/min、0.4 kw(耐圧防爆構造) × 1基

・ポンプ室(専用建築物)、渦流ポンプ、40 L/min、0.75 kw(安全増防爆構造) × 2基等

- ⑨ 「避雷設備」欄は、JIS Z 9290-3「雷保護 第三部：建築物等への物的損傷及び人命の危険」に基づく保護手法(保護角法、回転球体法、メッシュ法)、受雷部(突針、水平導体、メッシュ導体)及び内部保護の有無について記入する。

なお、他の建築物等に設置された避雷設備の保護範囲内であることにより、当該製造所等に避雷設備を設置しない場合は、建築物等の名称及び避雷設備の概要について記入する。

(例) JIS Z 9290-3による回転球体法(突針2本)、内部保護有り等

- ⑩ 「配管」欄は、危険物を取り扱う配管の材質又はJIS記号、外面の腐食を防止するための措置等を記入する。

また、地下埋設配管の場合は塗覆装、コーティング、電気防食等について記入する。

(例) 【地上部分】SGP(さび止め塗装) / 圧力配管用炭素鋼鋼管(さび止め塗装) / JIS G 3452(白管) / SUS等

【埋設部分】ポリエチレン被覆鋼管(溶接部ペトラタム含浸テープ被覆) / PLP管(電気防食)等

- ⑪ 「消火設備」欄は、危政令別表第5の消火設備の区分のうち、当該屋外タンク貯蔵所に設置したもの及びその設置数を記入する。

(例) 第4種消火設備(粉末大型消火器50型) × 1個 / 第5種消火設備(ABC粉末10型) × 3個等

- ⑫ 「タンクの加熱設備」欄は、当該屋外貯蔵タンクの危険物を加熱する設備を設置する場合に、加熱する設備又は施設名、最高加熱温度及び加熱媒体を記入する。

(例) ・ボイラー蒸気の配管により、タンクのジャケット部分で70℃に加熱する

・タンク内の電気ヒーターコイル(防爆構造)により、60℃に加熱する等

- ⑬ 「工事請負者住所氏名」欄は、設置者等から工事を請け負った法人の名称、主たる事業所の所在地及び工事の責任者又は担当者の氏名、電話番号を記入する。